

創刊第1号に引き続き、「政策経営」という考え方について、お伝えして参ります

構

造改革、規制緩和、民間能力の活用・・・などなど。これらはすべて、「経営」という考え方に立って始めて出てくる発想です。それは「経営」という考え方が、何よりも成果を大切に考える方だからです。「管理」とは、間違いを犯さないように、法令などの制度によってきちんと取り締まることを意味していますから、手続きなどのやり方が間違っていないかどうかに強くこだわります。だから、どうしても、成果よりも過程を重視してしまうのです。「経営」はそうではありません。成果を高めるためであれば、手続きを変えることも必要だと考えます。そこが、「管理」と「経営」の大きな違いのひとつです。



経

営とはそもそもどういう意味の言葉でしょうか。またまた広辞苑で引いてみました。「力を尽くして物事を営むこと。工夫を凝らして建物などを造ること」「あれこれと世話や準備をすること。忙しく奔走すること」「継続的・計画的に事業を遂行すること。特に、会社・商業など経済的活動を運営すること。また、そのための組織」と書いてあります。何とも頼もしい言葉です。「経営」というのは、努力するとか、頑張るとか、工夫するとか、計画的にやる、といった、当たり前だけれど、とても難しいことを前提とした考え方のようなのです。実態に合わなければ規則の方を変えればいい、前例になれば前例をつくれればいい、行政にできなければ民間にやってもらえばいい。そういう柔軟で、勇気ある決断は、「経営」の考え方を日頃から身につけて仕事に取り組んでいなくてはできないことなのです。「管理」から「経営」へ。これが今の私たち三浦市役所にとって、とても大切な改革方針です。

三

浦市役所は、市民と地域社会のために、柔軟で、勇気ある決断ができる市役所に生まれ変わりたいと思っています。そういう思いをもって、今年4月に「政策経営室」をつくりました。一方、市民生活や経済に混乱を引き起こさないために、法律や規則をきちんと守り、行政が間違いを犯さないように取り仕切る「管理」の仕事もなくてはならない仕事です。だから、「行政管理部」という組織もつくりました。政策経営室と行政管理部は、同じ家業を営む性格の違う兄弟のようなものです。この兄弟が力を合わせてこそ、市民の信託にきちんと応えることのできる市役所、市民と地域社会のために多くの成果をもたらすことのできる市役所が実現するのだと思います。



次

号では、今年の6月から7月までの2か月間に、政策経営室が「経営」の視点から実際に行ってきたことをお伝えします。市役所内の風通しをよくする、所属部署の垣根を超えてコミュニケーションする、市民の中にどんどん出ていく・・・。まだまだ小さい火種ですが、これが人の手から手へとわたっていくうち次第に大きくなっていくものと信じています。次号もぜひご覧ください。